

山麓をわたる風 No.3

平成30年12月17日発行

〔寄稿〕 「モノ」を介して「ヒト」の生き様を知る

尖石縄文考古館 山科 哲

尖石縄文考古館の私以外の職員（例えば鶴飼前館長や守矢館長、小池考古館係長）はほとんどがいわゆる「考古ボーイ」で、考古学という世界でのキャリアがもう圧倒的に違っています。私ももともと歴史が好きではありましたが、考古学という世界を考えるようになったのは高校生の頃で、自分の手で資料を発掘して、その発掘資料から過去を復元するところに関心を持ち、大学に入ってようやく勉強することになりました。



発掘調査は、一般に思われているほど華やかな世界ではまったくなく、ましてや国宝になるようなモノが出土することなどまずありません。調査は、土の観察と分類であるとか、記録であるとか、そういった内容が大部分を占めていました。一方で、大学では「〇〇式土器」「△△型ナイフ形石器」とか、調査で実物が出土するのを見たこともない土器や石器を覚えて、それについての論文を（ときには何を言っているのかさっぱりわからない論文も）読まなければなりません。

そんななか、大学3年生の時に、旧長門町（現長和町）にある「地下に埋まっている黒曜石を縄文時代の人間が掘り出していた」という遺跡の調査に参加しました。

スコップなどない時代の人間が、あの黒曜石を求めて地下3m近くまで土を掘る。実際に、発掘によってその採掘活動の痕跡をきちんととらえるために同じ深さまで掘るわけですので、その採掘活動が生々しく感じられ、しかもその割には”デカイ”黒曜石が出土しない…うん、確かに縄文時代の人々が持っていたのだろう、と非常に刺激的な調査でした。

現在、日本国内の黒曜石の原産地は100か所以上に上りますが、縄文時代に採掘された痕跡のある黒曜石原産地＝真の意味で縄文時代における黒曜石原産地と呼べるのは、この長野県の霧ヶ峰周辺にしかありません。そして、それらの黒曜石原産地の麓には、霧ヶ峰で入手した黒曜石を貯めておいた集落遺跡がいくつもあります。茅野市にはおよそ60もの黒曜石の貯蔵例がありますが、これらは日本各地への黒曜石分配の始点だと考えられます。

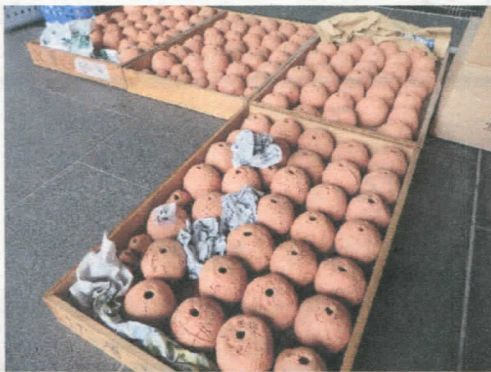


「モノ」を介して「ヒト」の生き様を知るのが考古学だと思っておりますが、霧ヶ峰と八ヶ岳山麓の遺跡出土の黒曜石は、その最高の資料だと思います。

現代の石器づくり講座から

☆市民館 「縄文アート」 10/6(土)～10/21(日)

今年も、縄文科学習で制作されたたくさんの作品が集まりました。市民館ボランティアさんが展示のし方を工夫して下さったので、とても楽しく鑑賞できました。



☆集まった縄文科作品



☆縄文のムラ ～環状集落？



☆貫頭衣も展示を工夫して



☆太陽をイメージしてならべていくと・・・



☆通路スペースも立派な展示台に



☆秋の木の実のレリーフ



☆茅野駅をバックに

☆市民館ボランティアの皆さんが、中庭では粘土作品を太陽と縄文集落をイメージして配列したり、縄文のお面が落下しないようにガムテープで補強したりと、さまざまな展示の工夫をしてくださいました。また、スロープ通路の窓ワクを利用して展示も好評でした。

「ほら、これ私が作ったんだよ」

「へえー、上手にできたね」

休みの日には、親子連れで会話しながらゆっくりと鑑賞していました。

☆「縄文かるた大会」 10/14 (日)

・個人戦と団体戦に保育園児から一般の方まで、のべ70数名が参加し、熱戦が繰り広げられました。大会も2回目となり、役員の皆さんがスムーズに運営してくれました。さわやかな真剣勝負が繰り広げられました。



☆縄文科学習公開授業 永明中 10/31 (水) 玉川小 11/5 (月)

①生きて働く知識・技能の習得 ②未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成 ③学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性の涵養

このような次期CSがめざす学びの姿が両校の縄文科学習の中にあられていました。

・体験をとおしながら探究的な学習をすすめられていました。ねらいや指導構想をきちんと立てて活動を位置づけておくことの大切さを感じました。

◇永明中学校 10/31 (水) 「歴史秘話ヒストリア～縄文1万年の美と祈り」の視聴とおして



(歴史秘話ヒストリアNHKホームページより)

・・・「歴史秘話ヒストリア」のVTRを視聴し、尖底土器が月の水をためておくための道具であること、月の満ち欠けや葬送等の内容から、再生を願う縄文人の精神性に共感し、心を動かされたHさん。自分のぬりえのモチーフに月やへびを取り入れ、縄文人の精神性に共感して、自分の活動を次のようにみかえ



していました。

「まず、月をいれました。月は人の生まれて死ぬまでの生活を表わしているので、縄文人にとっては欠かせないものだったからです。へびは時には人の命を奪う恐ろしいものでした。見方を変えれば、それは強い生命力の象徴・・・自分の子どもには、強い生命力をつけてほしいという願いを入れました。」

◇玉川小学校 11/5 (月) 仮面の女神～文様にこめられた願いを想像してみると・・・



(尖石縄文考古館ホームページより)

・・・タブレットを使ってY君は仮面の女神の写真をつくり見たり拡大したり。さまざまな角度から見て仮面の女神の○の文様や同心紋にずっと着目していました。

お腹の○やおしりの○○の文様→中ッ原の縄文人は「山がいっぱいあって、狩りの道具が作れるようにと願ったのではないか？」 (「なんで太ももが大きいのか？」→「脂肪が多いから」の意見に)→「ぜんぜん食べてないよ」→「『食べものがいっぱい食べられますように』と願っていた。」

などつつぶやきながら、中ッ原縄文人の願いに迫っていました。

*「仮面の女神」は後期(約4000年前)の土偶。「女神」がつくられた縄文後期は気候変動(寒冷な気候)にともない生活の不安さが現れてくる時代で、女神にはの願いが込められていたといわれます。



◆縄文耳（ミミ）より情報

～かつては麓の永明小児童の
矢尻ひろいの場

▽遺跡名 いっほんざわら 一本榎遺跡

〔永明寺山公園墓地取り付け道路〕

永明小中学校区という「塚原」の地名が語るように古墳の多さをイメージして、古墳時代の繁栄を考えがちですが、縄文時代から人々が住み着いていた場所でした。たとえば「永明小百年のあゆみ」の冒頭に次のような記述があります。

いっほんざわらいせき
「一本榎遺跡は標高八百十七mで永明寺山の南斜面の日当たりのよい高台にありますから、大むかしの永明のなかで最も住みよい所としてその時代の人々が集落をつくって生活していたことでしょう。永明小学校のみなさんの先輩の人たちも小さいころ、この付近から拾いきれないくらい石器や土器・黒曜石の矢尻などを拾った話を聞いています」

公園墓地下の一本榎遺跡からは、多くの遺物が見つかっています。

取り付け道路敷地内部分の発掘だけで、縄文時代の遺跡が6軒、弥生時代の住居跡が6軒、古墳が一基（ギンザラゾウス古墳か）発見されました。この場所には縄文時代から弥生、古墳時代まで（今でも）人々がずっと住み続けていたのです。



☆初代の「一本榎」！

ここからは遠く富士山を眺めることができるそうです。國學院大學名誉教授の小林達雄先生は著書「縄文文化が日本人の未来を拓く」の中で、「実は縄文の記念物には、非常に重要な要素が見られます。それは富士山を望んでいるものがたくさんあるのです。（中略）少なくとも記念物を造るときには縄文人は山を相当気にしていて、その山に対してきちんとその記念物の設計を合わせている」と述べています。



☆この取り付け道路下に遺跡が・・・

この遺跡では調査範囲が狭いこともあり、特別な記念物は見つかりませんが、富士山を眺めることができるこの場所は、縄文人にとって大切な場所だったのではないのでしょうか。茅野市内には富士山以外にも、「諏訪富士」と呼ばれる蓼科山だとか、八ヶ岳連峰や甲斐駒ヶ岳などが眺められる絶好のビューポイントがいっぱいあります。「山」を意識しながら市内遺跡の立地について考えてみると、縄文人の信仰とか精神性にせまることができるのかもしれない。（つづく）